

シーズ拠点に有機農業の推進 党市議団は農業公社を提案

令和2年4月に開校した鶴岡市立農業経営者育成学校「SEAD

S(シーズ)」は、2期生9人が入校しました。

昨年度1期生は13人が入校しましたが、今年の3月末まで11人が在籍し、うち5人が3月末で、1人が4月末で退校しました。

退校の理由は、「当初描いていた農業や研修のイメージと現実が違っていた」、「思っていた研修が受けられなかった」、「コロナ禍など

将来への不安」などがありました。

共産党鶴岡市議団は、シーズ設立に際して、民間開発会社のヤマガタデザインに任せるのではなく、市が農業公社を設立して運営することを提案しました。

農業公社は、耕作放棄地対策や農業従事者の確保・育成、農作業の受委託、加工販売、ブランド育成などを目的に運営する公共企業体で、公的責任が明確です。



民報HP

市農政課では新年度、シーズの研修体制を抜本的に改革しています。

新年度からは、鶴岡市有機農業推進協議会(小野寺喜作会長)のメンバーがワンチームで研修生の実習を受け入れ、有機農業の魅力を伝えていきます。

鶴岡市では有機農業一般公開講座を開設し、シーズを拠点に有機農業を推進していきます。(申し込み・市農政課)

令和3年度 有機農業 一般公開講座

講座	日にち	時間	開催内容	講師
第1回	6月25日(金)	16:30-18:00	「有機水稻」の栽培技術について	(公財)自然農法国際研究開発センター 三木 孝昭 氏
第2回	7月8日(木)	【現地巡回】 8:45-10:15 【座学】 10:30-12:00	「有機枝豆」の栽培技術について	山形県農業総合研究センター 一職員
第3回	9月3日(金)	終日予定	「有機野菜」の栽培技術について(研修視察:山形市・寒河江市)	山形県農業総合研究センター 一職員

会場：鶴岡市立「農業経営者育成学校 SEADS(シーズ)」(旧いこいの村庄内)
※受講料無料、事前申し込み必要、一つの講座だけでも受講可。(定員20名)

あまの産物応援事業 支援事業の募集

鶴岡市は4月から、朝日地域の農産物や資源を活かした特産品の生産、販売、ふるさと納税返礼品への登録に向けて、集落や地区などで取り組み、地域を元気にする事業を支援します。

補助対象団体は、朝日地域に本拠地を有し、3人以上で組織する団体で、将来にわたって継続的な活動が見込まれることです。



補助金額は上限30万円。問い合わせは、朝日庁舎産業建設課まで。応募期限は6月末。写真は、「かたくり温泉」の湯を煮詰めて作った塩を使い、塩小豆あんの入った「行沢どちもち」。

月山とわたし 8

加藤貞雄(山王町)

■冬の月山(つづき) ある年の正月、絵の仲間たちと北月山の写生に行った。羽黒山を下って大中島から瀬場に近づくと雪はぐつと深くなった。降る雪で北月山は見えなかった。瀬場から急な坂を登って北月山荘にたどり着くと、積雪は1階の窓を塞いでいた。2階の廊下にイーゼルをすえ、窓ガラスを通して降りしきる雪の中から、わずか数百メートル先の北月山の姿をとらえようと目を凝らした。

視界はミルクを流したように白い。ときおり空に明るみがさすと、巨大な山容が視界いっぱいに見れる。そのわずかな合間に、食い入るように見つめ、頭に刻み込み、せわしく筆を動かした。

その繰り返しは午後も半ばまで続いた。雪が激しさを増し、視界が消えると筆をおいて、降りしきる雪をじっと眺める。はてしなく降ってくる。天空から無数の白い花びらが眼前につきつきと、絶え間なく無限に現れてくる。

見続けていくと、時間も空間もない空(く

う)の世界を浮遊し、吸い込まれていくような感覚に包まれる。空感と言おうか無限感覚と言おうか。少年の頃もこのような光景を興味をもって眺めた記憶がよみがえってきた。

冬の月山― その非情さと美しさと妖しさに私は惚れこむばかりである。

■年賀状と月山 毎年11月に入って年賀ハガキ発売の知らせを耳にすると私はそれをわしてくる。今年ハガキにどんな月山を描いて送ろうかと思ひめぐらす楽しさと、あのしんどい仕事を思う憂うつさが絡み合うのだ。

私は長い間年賀ハガキは蟬原紙にヤスリ版で絵を描き、謄写版で刷ってきた。一番古いのは昭和36(1961)のもので、2人の中学生が握手している絵が大きく描かれ、今年もがんばろう！よろしく などとしたためられている。ちなみにそのハガキには4円と印刷されている。

その絵がきまつて月山の絵になったのは昭和50年(1975)からで今まで続いている。なぜ月山ばかりかというところ、そのころは羽黒中学校に勤めていて、8キロの道のりを、正面に月山を見据えながら12年間通い続けたこともあるかも知れない。



尾瀬の風に誘われて①

齋藤留治（藤島・新町）

いつの頃か忘れてしまったが、ある観光業者が私を突然訪ねてきたことがあった。私が旅好きなこともあって(最近では準備が億劫でどこにも行かないが)、てっきりセールスに来たものとはびっくり思って、話を聞かせてもらった。

しかし、中身は「弊社で尾瀬を訪ねるツアーを企画したので、ガイドとして参加してもらえませんか。」という事で、要するに「私に尾瀬のガイド」をしてもらえないかという事であった。

まだ東京に住んで居た頃から私は尾瀬が大好きで、寂しい懐具合と時間に相談をしながら、上野から夜行列車に乗り、当時の国鉄の機関区に勤めていた山友達等と何度も尾瀬の山歩きをしていた。

どこの誰に聞いたのか知らないが、そんな私なら尾瀬の案内が出るであろうと思っ頼みに来たようであった。

その時私も登山ガイドの末席に連なったような気がしたが、辞退をさせていただいた。私にはそんな能力も無いし、ある街でボランティアガイドをしてるAさんに聞かされていた事も有ったからである。

Aさんが言うには、「いくらボランティアであってもガイドをし

ていると色々な事を質問されることがある。ガイドだから何でも知っている訳ではないので、質問されたことに

対して判らないと返答すると、『なんだ、ガイドのくせにそんなことも知らないのか』とヒソヒソ話をされる。」ことがあるそう。

私は尾瀬の山小屋や地理等については大抵のことは判るが(でもある朝、コッソリと歯磨き粉を使ったら妙齢の女性に注意を受けたので大口は叩けないが)、動植物については全くの素人だ。

聞かれた時はAさんの二の舞いになりかねないので、「尾瀬には尾瀬保護財団があるのでそちらに頼んだら」とお断りをさせていた



pixta.jp - 388402

いたのである。

そんな事も有って手前味噌になるが、退職を機に尾瀬の自然と動植物を学ぶ為、保護財団に行きたいとも考えた事も有った。

しかし考えただけで時を逃してしまった。月山や鳥海山を見ると、尾瀬ヶ原や尾瀬沼を渡る爽やかな風が私の脳裏を掠める。

私は冬の尾瀬に入山したことは無いので何とも言えないが、四季の中で最も良いのは百名山の燧ヶ岳ひうちがたけと、至仏山しぶつさんに残雪が輝き、清流の中に可憐に咲き誇る水芭蕉が見頃の季節だと思っっている。(続く)

世界の国々 アイスランド② 世界で最も安全な国

青山 崇

アメリカのグローバ

ルファイナンス誌の「世界で最も安全な国ランキング」は、「自然災害」や「紛争・戦争」そして「治安など個人の安全」の分野で決めているが、アイスランドは2018年に2位、19年1位(128国)になった。

日本は48位である。アイスランドは第2次世界大戦後、外交の

っている。

近年外務省に平和維持活動を目的とする危機対応部隊(80名)が新設された。

それで平和維持活動に積極的で、ヨーロッパ諸国と旧ソ連構成国20ヶ国で構成される「平和のためのパートナーシップ」のホスト国を務めるなどしている。

かつて冷戦下ではアメリカ合衆国と国防協定を締結して、米軍基地を設置した。

しかし、冷戦終結から10数年を経た200



政権が意見封じ

毎日のニュースに、人の流れの先週と比べた数値がでる。すなわち、何処では何%減った増えた。そして協力を・というお願いだけで、飲み屋が休んだの休まないの・もだ。

▲人の流れが気になっているようだが、今人の流れを・例えば最初の緊急事態の時のように少なくともれば、コロナが無くなつて安全安心な五輪になるって言うんでしょかネ。

首相のいう安全安心がどういうものか、ハッキリしないんですよ。

▲五輪まで50日を切った。黄金週間には、東京に来ないで下さい。と知事が言っていたんだが、五輪をやればそんなものじゃないですよ。ま・ボランティア

だけでも7万人も集まるんですからサ。そこんところはどうなのか

6年、米軍の完全撤収が両国で合意し米軍は撤退した。

ただし、有事の際にはアメリカがアイスランド防衛を保障する協定を結んでいる。



(巡視艇)

ネ。五輪へのめりの知事さんからは何も無いようですが。

▲先日までの首相の会見には尾身さんが一緒に、首相より多くを喋っていたんだが、この頃は首相が遠ざけているみたいじゃないですか。もう専門家の意見を聞きたくないのではありません。

開催一辺倒の首相には、耳が痛いから。

▲自民党内部からは、尾身さんの口封じの為の言辞が開始されたぜ。喋り過ぎだ・開催を押し進めるに邪魔になる

・という事だろう。

▲ここにも、首相への付度なのか。しかし、自民党は大きな集団だぜ。何人かは五輪開催

強行に口を挟んでもいいんじゃないの。口を挟んだらもうすぐの選挙で、資金を貰えなくなる心配からかネ。

▲とにかく、7〜8割が反対の国民の考えとは大きくかけ離れているという事だ。(石川)